

授業改善推進プラン ～主体的に学習できる生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

教科	学年	授業アンケートの分析 (顕著な結果を評価の観点から分析し、簡潔にまとめる) <観点>課題解決、思考、表現、態度、自己分析	自ら課題を見つけ、解決できる生徒を 目指した取組内容 (分析を踏まえた取組目標)
国語	1 学年	○意見交換し、自分の考えを高めることができた肯定的に答えた生徒が87%以上であったが、教科の特性上、更に高める必要がある。 ○自分の方法で学習したことを、相手に伝えるように発表できたと答えた生徒は87%であったが、生徒が調べたり、まとめたりする時間を十分にとることはできなかった。	○挙手による意見発表という形態が多かったため、グループ形式など、班単位で意見をまとめる機会を多く設定する。 ○個人で自分の意見や考えをまとめて発表する機会やスピーチなどを設定する。
	2 学年	○課題解決・意見交換・自己分析で深めることができた肯定的に回答した生徒は90%以上であり、授業中の取り組み方としては概ね達成できたと考える。 ○見直して次につなげるという態度については85%の生徒が肯定的な回答であったため、授業中の振り返りが自主学習につながるものになる工夫が必要である。	○多くの生徒の意見の中で、友達との交流によって解決や改善につながったという記述があったので、交流(他者参照)の方法もさまざま取り入れながら、学びの振り返りの時間を設ける。 ○想定以上に思考の時間が必要だったので、時間の確保に努める。
	3 学年	○課題解決・意見交換ができた肯定的に回答した生徒は90%以上であり、調べ学習や発表の学習に関しても90%に近い割合になっているので、授業中の取り組みや学習に関しては概ね達成できたとと言える。 ○見直して次の学習につなげるということに関しては、85%の生徒がよくできたと回答しているが、中には復習の難しさを伝える回答もあるので、今後の課題である。	○今後も、個人で取り組む学習以外に友達との交流学习や話し合い活動などを取り入れていくようにする。 ○文章を書く時間を一定程度確保する。また、家庭学習が充実するように、復習内容や自分の課題が把握できる振り返りの時間を充実させる。

授業改善推進プラン

～主体的に学習できる生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

社会	1学年	○課題に対して自分で考えて取り組んだり、意見交換の中で考えを深めたりすることができた肯定的な回答をした生徒の割合が90%以上であり、概ね課題解決型の学習が定着してきた。 ○相手に伝わるように発表できた生徒の割合が約85%、学習について振り返り、次の学習につなげることができた生徒の割合が85%以上であり、授業形態やデジタルの活用が有効であったと考えられる。一方で、従来の講義型の授業を好む生徒もいるため、生徒の個性に合わせた学習の取り組み方の用意や手立てが必要である。	○個別や協働など生徒が好みに合わせて活動を選ぶ時間を増やしていく。生徒の学習状況に応じて、自分の意見を深化していく課題の設定などを行う。 ○教科の内容だけでなく、自分の学習の仕方について振り返り、学び続ける姿勢を身に付けさせるとともに、教科の面白さを伝え、学習意欲の向上や学習意義を実感できるような仕掛けを組み込む。
	2学年	○課題に対して自分で考えて取り組んだり、意見交換の中で考えを深めたりすることができた肯定的な回答をした生徒の割合が95%以上であり、概ね課題解決型の学習が定着してきた。 ○相手に伝わるように発表できた生徒の割合が85%、学習について振り返り、次の学習につなげることができた生徒の割合が80%と、自ら課題解決ができていても、その後に繋がっていないことが課題であるため、まとめや振り返りの方法を変えて工夫する必要がある。	○課題解決に向けての自己で取り組む学習だけでなく、他者の意見や考えを共有することについて、振り返る時間を設け、共有や発表に対する自己調整を行うことができるようにする。 ○振り返りの意義について、もう一度全体で確認し、次の学習につなげることができるようにする。
	3学年	○「友達と話し合ったり意見交換したりする機会では、自分の考えを深めたり広げたりすることができた」、「自分なりの方法で調べたり、まとめたりして、相手に伝わるように発表できた」に肯定的な解答をした生徒の割合が約92%であり、知識注入型の指導だけでなく、話し合い活動、調べ学習、スライド作成など多様な学習活動によるものだと分析している。 ○「学習した内容について分かった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができた」に肯定的な解答をした生徒の割合が90%弱であり、苦手意識を持つ生徒に対して、自信を持たせ、確かな学力につながる学習活動を増やしていく必要がある。	○班単位でスライドを作成しクラスで発表する授業の場合、班によってスライドの完成度に差が出てしまう。到達度の高い生徒にとってクラスでの共有の時間が学習内容的に物足りないと感じることのないよう、班単位でのスライド作成・発表の仕方については今後工夫・改善を行う。 ○苦手意識を持つ生徒の自信や自己調整の力を伸ばすことができるよう、授業の中で他者参照ができる学習活動の機会を増やしていく。

授業改善推進プラン ～主体的に学習できる生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

数学	1学年	○「課題を見つけ、解決に向けて、自分で考え取り組むことができた」に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が95%以上、「友達との意見交流の中で自分の考えを深めたり広げたりすることができた」や「学習の内容について分かった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができた。」に対して、肯定的な回答をした生徒が89%と、概ね自ら課題を解決する学習に取り組むことができている。一方で「自分なりの方法でまとめたりして、相手に伝わるように発表できた」に対して肯定的な回答を示したのは80.3%に留まっている。	○課題に対する解決の共有方法として、生徒の発表により重点を置いた授業展開をしていく。また、解答を共有後は、解決方法を自分でまとめる時間を取り、「発表とまとめ」をより重視した授業を行っていく。
	2学年	○課題を見つけ、解決に向けて自分で考え取り組むことができた」と肯定的な回答をした生徒の割合が95%以上であり、選択理由として「自分で考え解くことができた。自分で疑問を解決できた。」等挙げられていた。しかし、残りの5%以下の意見として「自分で課題を見つけていない」という意見も挙げられていた。新たな課題発見ができるようにすることが今後の課題である。 ○意見を交換するなかで、自分の考えを深めたり広げたりすることができた」と肯定的に回答した生徒の割合が95%以上であり、理由として「わからないことを教えてもらってできるようになった。違う解き方に触れ合うことができた。」等挙げられており、有効な共有する場を設定できた。	○課題を見つける部分については、与えられたものとなっているので、課題発見から解決する学習に切り替えていく。そのために、単元はじめにレディネステストを行い、課題を見い出した上で学習を進めていく。 ○意見交流の場は、今後も設けていく。ただ、自分自身で考えをもった上での交流を設定し、深い考えを広げられるような環境づくりをしていく。
	3学年	○課題を見つけ、解決に向けて、自分で考え取り組むことができた」と肯定的に回答した生徒は92%で「先生の説明の前に自分で考えることができた」という意見が挙げられていた。しかし、苦手な生徒は誰かの説明を待つ受け身になってしまう生徒も見られたことは課題である。 ○友達と意見を交換するなかで、自分の考えを深めたり広げたりすることができた」という割合は93%で考えを共有することで新たな発見をした生徒も多い。その一方で話すことが苦手な生徒もいるのでフォローが必要である。	○今後も自分たちで課題を見つけ、解決に向けて様々な方法を自分で選択し、主体的に取り組む授業スタイルを継続していく。 ○自ら考え、表現することが苦手な生徒に対して、サポート方法が選択できるようにする。

授業改善推進プラン

～主体的に学習できる生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

理科	1学年	○課題を見付け、解決に向けて、自分で考え取り組むことができた肯定的に答えた生徒は93.5%であり、主体的に取り組んでいると感じている生徒がほとんどである。 ○学習した内容についてわかった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができた肯定的な回答をした生徒は89.2%で9割を下回った。	○生徒が主体的に取り組めるよう、学習課題に対して予想させ、自分なりの学習方法で課題解決できるよう指導する。 ○学習のまとめや取り組みの振り返りについて、方法や視点を再度指導し、自己調整の力が高まるようにする。
	2学年	○自分なりの方法で調べたり、まとめたりして相手に伝えるように発表できたかについて、肯定的な回答が90%以上であり、まとめる能力・発表する能力には自信がもてた生徒が増えてきた。	○自ら課題を見つけることができたかどうかを自分で評価できるように、振り返りシートを活用して自らの課題・課題に対する自分なりの答えを表現できるように指導する。
	3学年	○友達と話しあったり、意見交換をする機会で自分の考えを深められたかについて肯定的な回答が90%以上あり、意見交換をしながら学習を深める能力が身に付いてきた。	○課題に対する答えや新たに見つけた課題について、記述できる項目を設定し、自己の学習方法について振り返り、自己調整力が高められるようにする。
音楽	全学年	○課題を見つけ、自分で考えた取り組みについては90%を超えたが、友達との意見交換や相手に伝えるような発表、振り返りが約80%と低めである。 ○生徒が課題について話し合ったり、発表したりする機会が少なく、次につなげる振り返りが不十分であったと認識した。	○友達の意見を聞いて、更に考えを深めたり、自分の考えを発表したりする学習活動を設定するとともに、次につながる振り返りを十分にできるよう時間の確保をしていく。
美術	全学年	○自分なりの方法で調べたり、まとめたりして、相手に伝えるように発表できた肯定的な回答をした生徒の割合が81.3%であり、発表の機会の必要がある。 ○課題を見付け、解決に向けて、自分で考え取り組むことができた回答した生徒が多かった。	○制作品の講評会において、知識及び技能の「材料や用具の工夫等」が「自分なりに調べたり」に該当するので、その点に関して発表する機会を設定する。 ○振り返りを毎時間行うことで、生徒自身で課題を整理し、解決に向けて考えることができたので、今後も振り返りの時間の充実を図る。

授業改善推進プラン ～主体的に学習できる生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

保健体育	1学年	○「課題を見付け、解決に向けて、自分で考え取り組むことができた」という質問に対し、肯定的に回答した生徒は90%以上おり、「自分で課題を見付け、分からないところは友達と協力することができた」などの意見が見られた。 ○「次の学習につなげることができた」という質問に対し、90%以上が肯定的な回答だったが、「見直すことができなかった」と回答した生徒もおり、自己調整力を身に付けることが課題である。	○知識を基に自らの課題を見付けたり、他者の課題を見付け伝えたりできるような手立てを工夫する。 ○課題を解決するための様々な練習方法を生徒が考え、実践したり、生徒が選択したりできる場を設定する。
	2学年	○「友達と話し合ったり意見交換したりする機会では、自分の考えを深めたり広げたりすることができた」の質問では、そう思う・ややそう思うの意見が9割を超えた。概ね協働的な学びができていると考える。	○授業の中で、練習方法など生徒が自己選択できる場面を、設定する。
	3学年	○「友達と話し合ったり意見交換したりする機会では、自分の考えを深めたり広げたりすることができた」と、肯定的な回答をした生徒の割合が99%であった。仲間と協力して取り組むことの喜びや重要性を今後も大切にしていける。	○自分や仲間の課題を解決する方法や練習方法を発見したり、選んだりする学習場面を設定する。
技術	全学年	○「課題を見つけ、解決に向けて～」に対する肯定的な回答が96%、また「学習した内容は、自分に合った～」に対する肯定的な回答は92%と、学習内容については概ね満足できる学習内容であった。 一方で「友達と話し合ったり意見交換したり～」と「自分なりの方法で調べたり、待まとめたり～」に対する肯定的な回答は90%を割っており、作業時間の確保を優先することで、意見交換やまとめの時間がやや少なかった。	○授業の中で、話し合い活動や意見交換をする場面を増やしていく。 ○課題レポートなどはそのまま提出ではなく、自分がまとめたレポートなどを発表する機会を設ける。
	1学年	○「課題を見つけ、解決に向けて自分で考え取り組むことができた」に対し、92.3%の生徒が肯定的に回答した。おおむね、積極的に「学び」に取り組んでいると言える。 ○「学習した内容を見直し、次の学習につなげることができた」と肯定的な回答をした生徒の割合が89.7%であった。学習内容を振り返り、自己調整する時間を確保する必要がある。	○授業の中で、生徒が自己選択できる場面を、意識して設定する（新出単語や音読など）。 ○テスト直しや振り返りシートについて再度指導・時間確保し、生徒が自己調整できるようにする。

授業改善推進プラン ～主体的に学習できる生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

外国語	2学年	○「課題を見付け解決に向けて自分で考え取り組む」「友達と話し合い意見交換する機会で自分の考えを深め広げた」「自分なりの方法で調べまとめ相手に伝わるように発表できた」では、肯定的な回答をした生徒の割合が全て90%以上であり、主体的に学習に取り組んでいると言える。 ○「学習した内容を見直し次の学習につなげることができた」と肯定的に回答する生徒が85.9%と他に比べてやや低く、学習内容の振り返りと復習の繰り返し、見直しを持たせた自己調整の必要性がある。	○単元前に自分の課題の確認の時間と単元後の明確な目標を提示・説明する時間を設定する。 ○生徒が自己選択できる機会を設定し、その後の発表活動につながる仕組みを構築する。 ○振り返りシートの時間確保、定期考査後のテスト直しと振り返りシートでの復習を重ね、生徒が適宜自己調整できるようにする。
	3学年	○「自分なりの方法で調べまとめ相手に伝わるように発表できた」の項目で、肯定的な回答をした生徒の割合が79.1%だったため、今後調べ学習やその発表における指導法を検討する必要がある。 ○「学習した内容を見直し、次の学習につなげることができた」と肯定的に回答した生徒が多く、自分なりの方法で次につなげることができている。	○授業の中で、調べ方や発表方法の提示を積極的に行い、ペア発表からグループ発表を経てクラス発表にするなど、生徒が自信がもてるように工夫する。 ○生徒同士で復習における自分のやり方を共有するなど、他者参照を通してよりよいものに改善する時間を確保する。